

●ポムドパン

2015

Mar

vol. 16

- 障害者支援施設ウインドヒル 〒761-0450 香川県高松市三谷町3851番地 TEL 050(3734)6707 FAX 087(888)4278
- グループホーム風見の家 〒761-0450 香川県高松市三谷町3890番地1 TEL・FAX 087(888)2557

- 発行/社会福祉法人ポムドパン
- 発行日/2015年3月1日

絆～人と地域とのつながり～



市長訪問

10月17日、市長さんに訪問していただきました。利用者のみなさんが作業に一生懸命取り組んでいる姿をご覧いただきました。これを励みになおいっそう頑張ることを伝えました。

三谷地区文化祭



11月3日、利用者、職員、職員家族が元気よく、目ざまし体操を披露しました。

今年、初めての参加です。舞台での発表は少し緊張していましたが、《皆さんの前で踊る》と言う経験は、自信に繋がり、地域社会での活動として、良い機会を得られました。利用者の笑顔が印象的であり、地域の皆さんの温かい拍手が今後の励みとなりました。

日産労連 人形劇



11月5日、地域交流棟に、おはなしキャラバンが到着。「さるのカニ」の人形劇を開催してくださいました。地域の三谷保育園児をご招待して、一緒に楽しみました。

舞台設計、巧みな話術で本物さながらの鑑賞を味わいました。ドキドキする場面等は興味深く見入っている利用者も多く、楽しい時間を過ごしました。

秋の全国交通安全運動



9月24日、秋の全国交通安全運動の街頭キャンペーンが行われました。香川町の香川総合体育館前の道路脇に立ち、通行する車のドライバーに安全運転を呼びかけました。少し暑かったですが、しっかりと旗を持ってがんばりました。

ウインドヒルの



10

年間の歩み

● ~ポム・ド・パンでの暮らし10年~

障害者支援施設 ウインドヒル・グループホーム風見の家
管理者 松原 正子

- なぜ、【全国自閉症者施設協議会】の施設が存在するのか?
- ◆平成15年9月24日 【社会福祉法人ポム・ド・パン】高松市より認可・設立
- なぜ、【自閉症者の方が生活する入所施設】が存在するのか?
- ◆平成16年3月1日 【障害者支援施設ウインドヒル】新築工事着工
- なぜ、【このようなタイプの施設】が必要なのか?
- ◆平成16年11月30日 【障害者支援施設ウインドヒル】施設竣工
- なぜ、【四国】に存在していないのか?
- ◆平成16年12月13日 利用者入所
- なぜ、【自閉症者への対応(関わり)】は困難なのか?
- ◆平成16年12月16日 落成式

- ★居室をオール個室・9人、1ユニット形式
- ★合計6ユニットが中央廊下で結合された形で構成
- ★ユニットは、生活課題の似通ったもので構成
- ★グループホームを視野にいれた構造で家庭に近いことを重視して設計
- 等々の要素を兼ね備えて、仲間とともに生活がスタートして10年が過ぎました。



10年前の利用者は、『座る』『待つ』『話を聞く』『少しだけ我慢をする』『迷惑をかけない』等々人として、日常、簡単で当たり前のことを行っていました。いつもウロウロと、興味のあるものに惹かれてか否か、『座る』という動作は身についていませんでした。

自閉症の特性だから……とらえられ、人として豊かな生活、安心・安全の生活が保てない方もいらっしゃいました。

『自閉症の方は宇宙人のようだ』と例えられることもありました。

しかし、本人が一番混乱していることを理解して、丁寧に関わっていくことで、成長が見られました。

信頼関係を構築し、譲らないラインをしっかりと伝え、解っていただく支援を継続すれば、素晴らしい人に成長しつつあります。

10年を迎える利用者のひとり、一人がその人なりに、自立を果たし、私たちに勇気をくれました。

支援員さんが、関係者が、一貫性を保ち、正しいことをコツコツと生活全般に渡り、24時間バトンタッチで関わった成果です。

本人の障害側面ではなく、支援をする側の、関わり方を常に、意識して本人を認めることが重要さに気づかされた10年でした。

『ポム・ド・パンでの生活は、さまざまなメニューを提供してくれて、体験が多く、支援員さんの丁寧な関わりによって、僕たちはとても楽しく、豊かな生活を過ごし、自分でできることが増えているよ。』という声が聞こえるようです。

● 開所当初より、かかわって下さっているボランティアの三木先生、水上先生



三木先生



水上先生

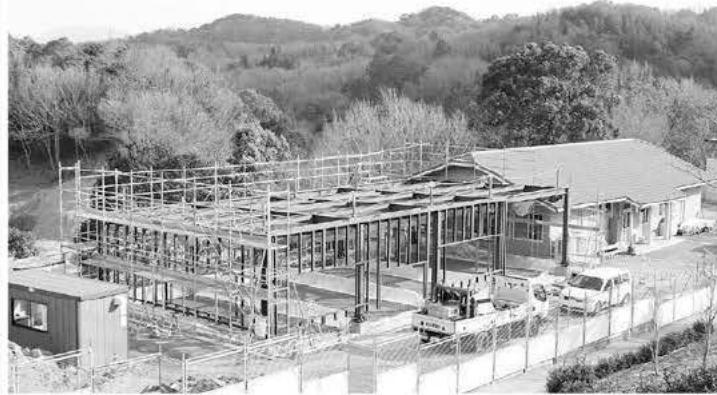
● 開所10年目を契機に作業環境を整備

理事長 松原 廣

現在のウインドヒル作業棟は居住棟・地域交流棟と共に、平成16年12月の開所時に整備されたもので、施設利用者数や作業内容に対して少し狭く、作業の完成品を地域交流棟に仮置きするなど、いろいろと工夫を凝らしながら作業を行ってきました。開所10年の節目に、懸案であった作業環境の整備を図ることになりました。まず第1に現在の作業棟(鉄骨平屋建 199.50m²)のすぐ北側に、作業スペースの増築(鉄骨平屋建 198.65m²)を行い、材料の搬入と製品の搬出を行う荷受けスペースとプラットホームを整備、そして材料と製品の一時保管をする倉庫、それから今後いろいろな作業に対応できる多目的作業室を設けます。既に昨年の12月1日に着工しており、本年の4月20日に完成する予定で現在工事を進めています。この増築工事は、これまでの障害者支援施設ウインドヒルやグループホーム風見の家新築工事と異なり、利用者が日中活動を行っているすぐ横での工事となるので、防護柵の設置や工事車両の通行時等には細心の注意を払って工事を行っています。

現在、日中の作業は、障害者支援施設ウインドヒル利用者の生活介護で、ピンセットの袋詰、紙工作業、しいたけ栽培、野菜栽培など行っており、グループホーム風見の家利用者の就労継続支援B型の作業は、うどん箱折り、電子部品の組立などを行っています。

今後、栽培した野菜等の販売所の設置も計画しており、地域との交流を視野に入れた運営を行いたいと思っています。また、原木しいたけ栽培ハウスを平成25年に設置して、更に品質の高い原木しいたけ作りに取り組んでいるところですが、屋外作業班の活性化と充実度を高めることを目指し、花卉栽培用のハウスの設置も計画しています。



平成27年2月9日 現在

● 限りなく純粋な人達にエールを!

スーパーバイザー 横田敬一郎

10年前の開所当初はとても激しい行動障害を持っていて、みんな勝手に行動し、気に入らないことがあるとすぐパニックでした。器物破損、他害もありました。言語表現が不十分なため、日々の不適応行動の裏に秘められた本音を察知することは困難でしたが、少しづつ理解できるようになり、支援に生かした取り組みを継続した結果、今日のような心が和み落ち着いた生活が出来るようにになりました。

彼らは本来とても純粋で、自分の気持ちに限りなく正直に生活をしています。そして、適切な援助と集団生活により、自己実現と労働への参加で「生きがいをもつ生活」を創っています。

● 繼続は健康なり

看護師 金川 恵子

身体にいいことだと分かっていても続けることは難しいことです。

ウインドヒルでは開所当初から下記のことを続けることで健康を維持しています。

- | | |
|------------------|-------------------|
| ① 換気、気温に応じた衣服の調整 | ③ 施設内ウォーキング、ジョギング |
| ② 手洗い、うがい | ④ バランスのとれた食事 など |

しかし、「手を洗う」ことの大変さ! ていねいに正しく洗うことの目標はまだ達成できていませんが、支援員がよりそい、石けんを泡立てしっかり洗うということに取り組み継続しています。

また、「うがいをする」ということもあたりまえにできないのが現状。

「水を口にふくむ」「ガラガラをする」等 ゼロからのスタートの利用者もいました。“障害があるからできない”のではなく、“できるようになった”と語れる10年間の歩みです。

なかでも施設内ウォーキングは知らず知らずのうちに免疫力を高めているようで、年々体調を崩す人が減っています。

しかし、利用者も歳を重ねてきていますので、これから10年は今までの10年と同じではないと思います。今まで以上に健康づくりに力を入れ、疾病の予防、早期発見に努めていきたいと思います。

第9回

地域とのつどい



ウェルカムゲート



セレモニーの様子(交流棟)



高松ウインドシンフォニー



保護者会バザー

昨年10月26日(日)

第9回 地域とのつどいを開催しました。

毎年恒例となっている「三木先生といっしょに歌おう with 氷上さん」、「ニヤー倶楽部さん」「ルーヴさん」をはじめ、保護者の藤岡さんによる「ヨガ」、高松ウインドシンフォニーの皆さんによるすてきな演奏など会場を盛り上げてくださいました。

たくさんの方々に支えられ、地域とのつどいが開催できるのは皆さまのあたたかいご協力のおかげです。

本当にありがとうございました。

平成27年度は11月8日(日)に開催予定です。ご参加、よろしくお願い致します。

ポム・ド・パンの理念

障害があっても、誰からも愛される人に成長できるように、丁寧に寄り添って関わります。

障害があっても、正しいことを根気よく伝えることにより、何歳になっても成長することを信じます。

障害があっても、できることが増えるように、様々なことを獲得できるように、一貫性をもって、継続して支援します。

障害があっても、その方の得意なことを、大好きなことを見つけ、これを通して、生活基盤を作ります。

研修報告 第28回・全国自閉症者施設協議会・熊本大会に参加して

11月13、14日の両日、火の国熊本にて開催されました。新幹線での移動は、岡山より2時間半ととても近く感じられました。

1日目、全体会として同協議会会長、副会長のリレートークの後、スティーブ・クルーパ氏による、「施設における自閉症の方たちに対する関わりの新時代へ」と題したアメリカでの具体的な実践例の基調講演があり、行政説明を合わせ、初めて参加した者でもわかりやすいプログラム構成で進められました。特に2日目は5つの分科会に分かれ、私の参加した第1分科会では、当事者家族と支援者の話を合わせて聞くことができ、人の親として、支援員として、心の在り方を考えさせられました。この経験をこれからの支援に役立てたいと思っています。

支援員 松原 美恵

今回初めて自閉症者協議会に出席させていただきました。行政説明や基調講演、リレートークなど大変勉強になりましたが、特に印象に残ったのは2日目のケース討論会で、マニュアル一辺倒の支援では上手く施設生活を送れない強度行動障がいを持つ人たちの事例を通して「何とかしなければと関われば関わる程リスクが高まる現実」や「個性やらしさなど」と言いつつ、一步踏みこまないことにより利用者の権利を奪ってしまう可能性についての討議でした。各施設においても毎日、支援員が葛藤しながらも利用者の成長に全力を傾けていることに感銘を受けました。今回、学んだことを参考により良い支援ができるよう頑張っていきたいと思います。

支援員 廣瀬 雄二

虐待防止研修を行っています

香川県障害福祉相談所より、講師:樋原一徳氏を招いて、虐待防止研修を実施しました。

全員参加できるよう9月21日、11月21日と2回に分けて「虐待行為の定義」「施設内虐待の構造的要因」「身体拘束の禁止」について学びました。

今回、講師の方が話される中に「自閉症」の方の他害などの行動障害への対応の時に手を押さえて止めることも厳密には虐待になり、そういった状況になった場合、具体的にどのようにして止めるのか?多くの職員がこの部分の重要性を感じており、支援の仕方、工夫をしっかりと議論していきたいと思いました。

支援員 村川 文生



三谷地区清掃に参加しました

2月1日(日)三谷地区清掃日。自治会の皆さんとウインドヒル保護者、利用者、職員ともに美化活動を行いました。

道路に落ちたゴミ、あき缶等を拾い集めてとてもきれいになりました。年に一度の恒例行事として定着しています。



香川第一中学校の生徒さんがウインドヒルで社会体験をしました

僕は、職場体験を通して人ととのつながりがとても大切だということを感じました。

ウインドヒルの皆さんと一緒に地域の方々との交流で公渕公園や亀鶴公園に行きのんびりと過ごしました。

ウインドヒルの皆さん笑顔で楽しそうにしていたので僕も嬉しくなりました。

畑作業ではさつまいもほりをお手伝いしました。さつまいもは、とても大きくてびっくりしました。

皆さんと協力して作業ができたのでよかったです。とても貴重な3日間だったと思います。この経験を生かしてこれからも頑張っていきたいと思います。

2年 川田 廉三

今日、ウインドヒルで松原さんの話や施設を見学して、福祉について、学びました。自閉症はコミュニケーション障害で言葉や気持ちをうまくつかえられず、大変だなど、障害者の方の様子を見て思いました。そんな人たちがいるなかで、支援する人がいたりする中で、自閉症の人たちが少しずつ成長しています。私たちのように、ふつうのくらしができる人も、障害を持った人も、おたがい尊重し、たすけ合うことが大事だなと思いました。

1年 田渕那津子



ウインドヒルに見学に来られました

～自閉症に取り組むウインドヒルに見学～

● 9月9日(火) のぞみ園さん (さぬき市)

生活スキルの獲得、生活リズムをつくるなど徹底した支援をされており、理にかなった支援をされているように感じました。またここまでたどりつくには大変なご苦労があったのではないかと思いました。ウインドヒルさんにしかできない支援もあるようには見受けられましたが、見習うべきこともたくさんあり今後の支援に生かしていこうと思います。ありがとうございました。

岡サービス管理責任者



日中活動に入る際に作業着に着替えて作業をする。歩行の時のみジャージに着替える。今から何をするか準備の段階から利用者自身が意識できるように働きかけている様子が見られました。統一した支援を継続して行う。口で言うのは簡単ですが施設長を先頭に徹底して何年もかけて寄り添いながら粘り強く統一した支援を継続してきた実績から感じとれるお話が聞けました。お忙しい中、快く丁寧に対応して頂きありがとうございました。施設見学で学んだ事を参考にしていきたいと思います。

千田サービス管理責任者



施設という雰囲気は無く、家庭的な居住の場であると感じました。

居住の場と日中活動の場を分けることで重度の方でもメリハリのある充実した生活を送られている印象を受けました。

統一した支援、あきらめない支援が職員に浸透している印象を受け、それを根気強く継続して実施し、成果が上がっている事は見習わなければいけないと感じました。

見学者の私たちに対して親身に熱意のあるお話をしていただきありがとうございました。

青木南寮寮長



施設が少人数でのユニットになっているので利用者中心の生活空間ができているので落ちついた生活ができるていると思われます。1日の日課も利用者自身が動きやすいように支援員が工夫しておられるようで戸惑いもなく落ち着いて過ごせっていました。個人の主張がうまく伝わらないときはどのように受け止めているのかを少し教えてもらえばと思います。今回の施設見学とても参考になり本当にありがとうございました。

植田就労 B、施設管理主任



施設見学として参加したが、他施設の内部を直に見るのは初めてであり、またウインドヒルは自閉症者に特化しているということもあり、関心を持って見学することができた。

住居棟は開放感があり、特徴であるユニットのイメージとはかけ離れた雰囲気であった。

他にも施設の構造、敷地内での移動方法等、様々な工夫を感じられ、周辺の静かな環境とうまくミックスして好感が持てた。松原施設長からは、ハードは変更が困難だが、支援方法はいくらでも変更可能であり、大事なのは職員間の意識統一であるとの説明に施設長自身のポリシーが感じられるなど、得ることの多い一日であった。

山田南寮生活支援員



● 9月5日(金) くすのき園さん (高知県須崎市) 障害者支援施設くすのき園 森本 貴仁

ウインドヒルは、「箱折」「ピン入れ」「土入れ」等、活動内容も豊富で、どの利用者の方も作業時間になると活動の場所へ移動し自分に合った作業を行っており、活動にメリハリがあるように感じました。また、年に1度の「地域とのつどい」での交流や定期的な行事も充実しているので、施設の中で生活しながらも楽しめることが多くあるように思いました。それは利用者の方にとっても嬉しいことだと思います。

私の勤務する施設（くすのき園）は高台移転の計画が進んでおりますが、建物が新しくなるというだけでなく、同時に新たな「くすのき園」となるように、活動や余暇支援について今から検討し、取り組んでいく事が必要だと痛切に感じました。

支援の方針を根本から見直しながら、今回見学させて頂いて学んだ事を少しづつでも取り入れて、利用者の方へより良い支援を継続して行えるようにしていきたいと思います。

お忙しいところ長時間に渡り、施設見学の対応をして頂き誠にありがとうございました。



11月19日 社会福祉法人 恵愛福祉事業団 白鳥園(東かがわ市)、2年目の職員8名が見学に来られました。

高松市公立保育所 特別支援保育担当者研修会

10月10日(金)・21日(火)

高松市保健福祉局こども園運営化より依頼をうけて、平成22年よりウインドヒルにて継続して実施しています。
参加者からのメッセージをいただきましたので、お伝えします。

- ・“相手を一人の人間として見る”“同じ世代の若者ならどうだろうという意識を持っておくこと”ということが心に残った。
- ・できない所をみるのではなく、何ができるのかを見て、支援の方法を考えていく、ということが心に残った。
- ・障害に目を向けるのではなく、本人の能力に目を向けるようにすることを学んだ。
- ・同じ年代の人人がしている経験と同じように体験できる場を作ること。同じ年代の人と同じような対応をすることが大切だと学んだ。
- ・正しいことをきちんと教えることの重要性を感じた。何百回、何千回、と繰り返すこと。
- ・禁止の言葉ではなく、言葉によって、的確に簡潔に伝える努力をしていきたい。
- ・「早期関わり、早期対応、先手必勝」が大切だと学んだ。
- ・幼児期には、排泄の自立、待つこと、座ること、聞くことを本人なりのペースで獲得させることができることが大切だと学んだ。
- ・「丁寧に、繰り返し、コツコツと」何度も何度も繰り返し、粘り強く保育していきたい。
- ・どうすればできるようになるか、自分なりの支援の方法を考えて努力していきたい。
- ・利用者の方々が、生き生きと活動させていた。
- ・幼児期の大切さ、おさえておくことを、改めて学んだ。
- ・職員が一貫性をもって丁寧な支援をする。楽しい関わりで毎日を積み重ねている。
- ・根気よく励まして、わがままは通させない態度も大切。“叱らない”けど“譲らない”姿勢。
- ・障害レベルに応じた支援、段階をきちんと踏むことで、確実な自立へつながる。
- ・障害とは治すべきものではなく、上手に付き合っていくことで、軽減していくものだと学んだ。
- ・もう一度、子どもと向き合い、支援策を考えていきたい。
- ・職員での連携を密にして、一貫した支援方法で関わられるようにしたい。
- ・普段何気なくしている行為…手をつなぐ、床に座ってお弁当を食べる…も障害を持っている人にはとても難しいことで、そこへ到達するには時間を要することを初めて知った。
- ・つい問題行動に目が向いてしまいがちだが、ここで怒るか笑うかで大きく違ってくる、ということが心に残った。
- ・「一貫性を持った支援方法に、支援職員それぞれがオリジナリティを持った丁寧で楽しい関わり」をモットーにしていることが、保育所に似ていると思った。
- ・手を使う活動を促すことは有効である。
- ・お母さんのフォローが大切。お母さんの話を聞くこと。
- ・自らの体験を通してお話をしてくださいたった施設長さんの話が本当によかったです。
- ・私たちが今関わっている時期が、その子の将来に大切だと聞き、意識することで、言葉かけ、援助などもっとベストな方法をみつけていきたい。
- ・「褒められてうれしい」「人と一緒にいると楽しい」という経験を大切にしたい。
- ・今まで悩んでいたことに少し光が見えたようで、前向きになれた。ありがとうございました。



～たくさんの感想をありがとうございました～

保護者会よりいただきました

～暖かなお気持ち～
ありがとうございました
今後とも
よろしくお願いします



ワンダーコア



卓球マシーン

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会会員

(敬称略・順不同)

◆個人会員 平成26年度 平成26年9月1日～平成26年12月31日

山西 大介 竹野内政子 西村 玲子 岡田美智代 三好美千代

平成26年9月1日～平成26年12月31日現在、以上の方々に継続及び新規ご入会頂きました。

平成27年1月1日以降にご入会の方々のお名前は次回の会報に掲載させて頂きます。

本当にありがとうございました。

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会のご案内

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会は、当法人が運営する障害者支援施設「ウインドヒル」とグループホーム「風見の家」をサポートしています。

今後長期にわたり、利用者一人ひとりを大切にした理想的な療育を行い、施設の整備を継続的に発展させてゆくには、より多くの方々のご支援を必要としております。

何卒、私達の趣旨をご理解いただき「社会福祉法人ポム・ド・パン後援会」にご入会下さいますようにお願い申し上げます。

年会費 個人会員 一口 3,000円 団体会員 一口 10,000円

ご入金方法 郵便振替 口座番号 01690-3-74305 口座名称 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会

「ポム・ド・パン」とはフランス語で松ぼっくりという意味です。「ウインドヒル」の建つ丘には、時折、松ぼっくりが転がっています。松ぼっくりは、松の木の生命である種子が住んでいるお家です。ここで種子が大切に育まれ、また、次の命を生み出していくます。一年中緑の葉をつけ、砂地でも荒地でもしっかり根をはり、大きく枝を広げている松。その命をしっかりと包み込んでいる松ぼっくり。「社会福祉法人ポム・ド・パン」も強く・たくましく・大きく、そして、小さな一つひとつの命を育む暖かな場所なのです。

保護者会コーナー

「保護者会の旅行」

9月26日、ポム・ド・パン

保護者会の日帰り鳥取旅行に参加しました。大型バス

2台が満席のにぎやかな旅になりました。バスの中では、子ども達が窓側に坐り車窓から景色を楽しみ、親達はおしゃべりを楽しみました。

鳥取といえば砂丘が有名です。私達は砂丘近く

に建てられた「砂の美術館」を訪れ、雄大な砂の作品を見てロシアの歴史や芸術に触れました。その後に訪れた「わらべ館」では、懐かしいおもちゃや童謡を楽しみました。

旅は良いですね。子どもと並んで、一緒に同じ空間、同じ時間を過ごして、気持ちがつながり易いひとときになります。ポム・ド・パンの皆さんと、仲良く楽しく、そして遊びもある良い思い出の旅になりました。

藤岡 幹子

社会福祉法人ポム・ド・パンのホームページをリニューアルしました！！
当法人からのお知らせやウインドヒルでの取り組みなどを随時更新していますので是非ご覧ください。
スマートホンでは右のQRコードから読み取れます。
アドレス：<http://www.pomme-de-pin.or.jp/>



社会福祉法人ポム・ド・パン



メリー♀(年齢非公開)
2006年12月にウインドヒルに来ました。

編集後記

昨年12月13日でウインドヒルが開所して10年となりました。今回号の作成にあたり当時を振りかえってみると、利用者の皆さんのが少しづつですが確実に成長している姿を実感できました。

何歳になっても成長することを信じて支援していきたいと思います。



モモ♀
2006年1月生まれ